

リモートI/O変換器 R3 シリーズ

取扱説明書	Tリンク用、富士電機製Tリンクインタフェースモジュール相当	形式
	通信カード	R3-NF2

ご使用いただく前に

このたびは、エム・システム技研の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認下さい。

■梱包内容を確認して下さい

・通信カード1台

■形式を確認して下さい

お手元の製品がご注文された形式かどうか、スペック表示で形式と仕様を確認して下さい。

■取扱説明書の記載内容について

本取扱説明書は本器の取扱い方法、外部結線および簡単な保守方法について記載したものです。

ご注意事項

●ホットスワップについて

・本器は通電状態での交換が可能です。ただし、システムに影響を及ぼす可能性があるため、必ず上位機器とは通信していない状態で交換して下さい。複数のカードを同時に交換することは大きな電源変動を起こす可能性があります。交換は1台ずつ行って下さい。

●供給電源

・許容電圧範囲、電源周波数、消費電力
 スペック表示で定格電圧をご確認下さい。
 交流電源：定格電圧 100 ~ 120 VAC の場合
 85 ~ 132 V AC、47 ~ 66 Hz、約 20 VA
 定格電圧 200 ~ 240 VAC の場合
 170 ~ 264 V AC、47 ~ 66 Hz、約 20 VA
 直流電源：定格電圧 24 VDC の場合 24 V DC ± 10 %、
 約 12 W

●取扱いについて

・本器のスイッチ類は、通電時に操作しないで下さい。スイッチによる設定変更は、電源が遮断された状態で行って下さい。

●設置について

・屋内でご使用下さい。
 ・塵埃、金属粉などの多いところでは、防塵設計のきょう体に収納し、放熱対策を施して下さい。
 ・振動、衝撃は故障の原因となることがあるため極力避けて下さい。
 ・周囲温度が -10 ~ +55℃を超えるような場所、周囲湿度が 30 ~ 90 % RH を超えるような場所や結露するような場所でのご使用は、寿命・動作に影響しますので避けて下さい。

●配線について

・配線は、ノイズ発生源（リレー駆動線、高周波ラインなど）の近くに設置しないで下さい。
 ・ノイズが重畳している配線と共に結束したり、同一ダクト内に収納することは避けて下さい。

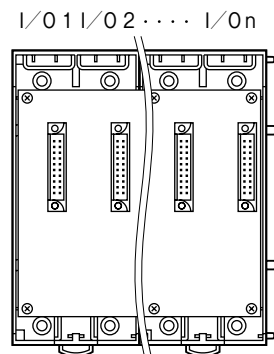
取付方法

ベース（形式：R3-BS）、アドレス可変形ベース（形式：R3-BSW）をお使い下さい。ただし、通信カード（形式：R3-NF2）をベースに取付ける前に、下記の項目を行って下さい。

■ノードアドレスの設定

必ずカードを取付ける前に、通信カードのノードアドレスを設定して下さい。

■ベースへの取付



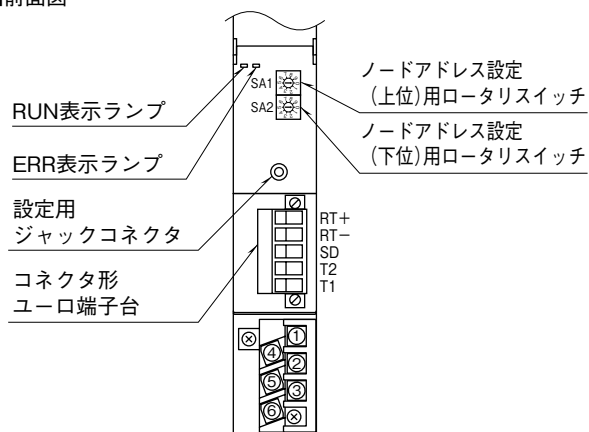
R3-BS 使用時は、入出力カードは、I/O 1 から順に隙間なく実装して下さい。I/O 1 が未実装、またはスロットを飛ばして入出力カードを実装すると、エラーとなり、通信できません。

通信カード、電源カードは、全てのスロットに実装可能ですが、基本的には入出力カードの右側、またはベースの右側の実装して下さい。

R3-BSW には、ロータリスイッチによりスロット番号が任意に設定することができます。これにより、実装するスロットを自由に変更することができます。

各部の名称

■前面図



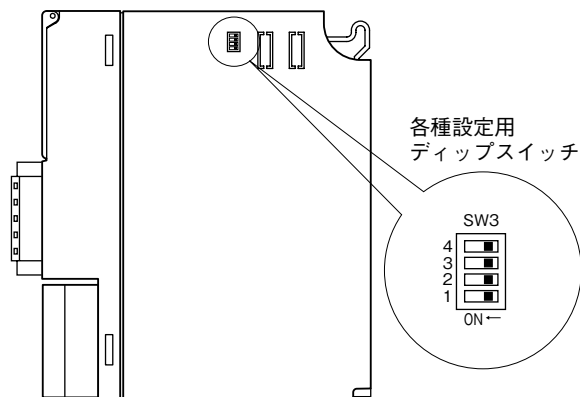
■前面スイッチの設定

(*) は工場出荷時の設定

●ノードアドレス設定 (SA1、SA2)

2個のロータリスイッチにより、Tリンクアドレスを10進数で設定します。(設定範囲：00～99)

■側面図



■側面ディップスイッチの設定

●機能設定 (SW3)

通信カードの機能を設定します。

・メイン/サブ切替設定 (SW3-1)

R3シリーズでは、通信カードを2枚まで実装でき、通信の2重化が可能です。2枚実装する場合には、必ず一方を“OFF：メイン”に、他方を“ON：サブ”に設定しなければなりません。また、1枚のみの実装の場合は“OFF：メイン”に設定しなければなりません。

SW	メイン/サブ切替	
	メイン	サブ
SW3-1	OFF(*)	ON

・入力データ設定 (SW3-2)

入力カードに異常が発生し、通信カードとの通信ができない場合に入力値を設定します。“OFF”の場合は最終値で保持し、入力カードとの通信ができるまで更新されません。“ON”の場合は、入力カードとの通信が連続して異常(不可)の場合、入力値を“0”にします。

SW	入力データ	
	ホールド	“0”セット
SW3-2	OFF(*)	ON

・ランプ表示切替設定 (SW3-4)

前面のRUN、ERRのランプの表示内容を切替えます。

SW3-4	ランプ表示切替	
	RUN	ERR
OFF(*)	正常時 緑色点灯	異常時 緑色点灯/点滅
ON	データ受信時 赤色点滅	データ送信時 赤色点滅

注) SW3-3は未使用のため、必ず“OFF”にして下さい。

コンフィギュレータソフトウェア設定

コンフィギュレータソフトウェアを用いることにより、以下の設定が可能です。

コンフィギュレータソフトウェア（形式：R3CON）の使用方法については、R3CONの取扱説明書をご覧ください。

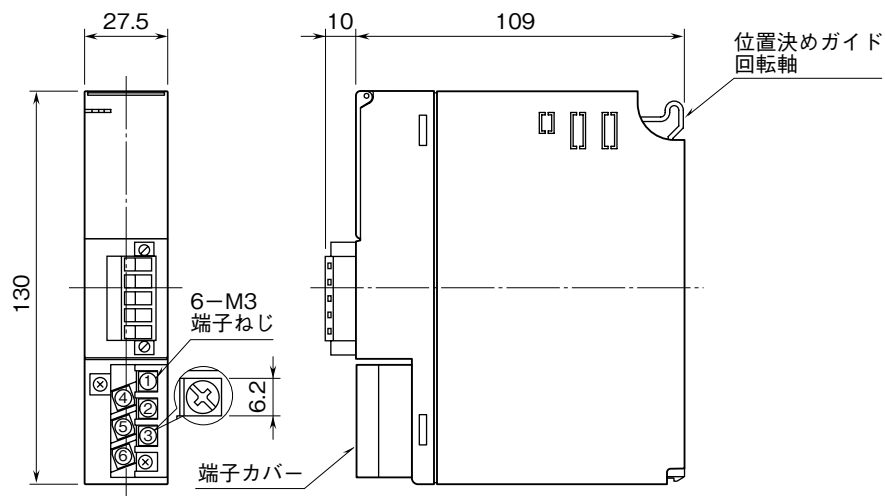
通信設定

項目	設定可能範囲	出荷時設定
Time (未通信検出時間)	2~32000 (0.1 秒)	30 (0.1 秒)

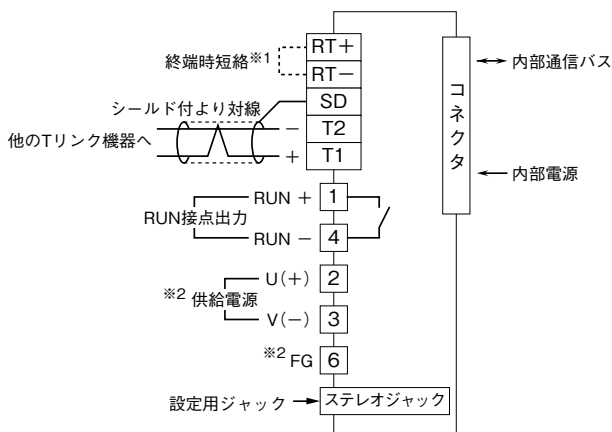
接 続

各端子の接続は端子接続図を参考にして行って下さい。

外形寸法図 (単位：mm)



端子接続図



- ※1、より対線の伝送ラインが終端の場合は (= 渡り配線がない場合)、端子RT+、RT-間を付属のショートチップ(または配線)で短絡して下さい。ユニットが伝送ラインの途中に配線されているときは、端子RT+、RT-間のショートチップをはずして下さい。
- ※2、供給電源回路なしのときは付きません。
- 注1) 渡り配線はT1、T2、SD端子を使って下さい。
- 注2) FG端子は保護接地端子 (Protective Conductor Terminal) ではありません。

配 線

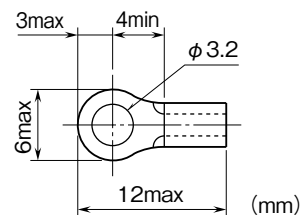
■M3 ねじ端子 (供給電源・RUN 接点出力)
 締付トルク：0.5 N・m

●圧着端子

圧着端子は、下図の寸法範囲のものを使用して下さい。また、Y形端子を使用される場合も適用寸法は下図に準じます。

推奨圧着端子：R 1.25 - 3 (日本圧着端子製造、ニチフ)
 (スリーブ付圧着端子は使用不可)

適用電線：0.75 ~ 1.25 mm²



■コネクタ形ユーロ端子台 (Tリンク)

適用電線：0.2 ~ 2.5 mm²

剥離長：7 mm

伝送データ

R3-NF2はスロット1から順にTリンクアドレスを割付けます。R3-NF2で設定するTリンクアドレスは先頭アドレスとなります。

例えば、入出力カードの構成が、スロット1:R3-SV4、スロット2:R3-YV4、スロット3:R3-DA16、スロット4:R3-DC16の場合、入出力データアドレスは下記のようになります。

R3-NF2のTリンクアドレスは“10”とします。接点入出力カードはビットアドレスとしても表示可能です。ビットアドレスの場合、CH1～CH16のデータが0～Fに割付けられます。

スロット	カード	Tリンクアドレス	データワードアドレス	内容
1	R3-SV4	10	0	CH1の入力データ
			1	CH2の入力データ
			2	CH3の入力データ
			3	CH4の入力データ
2	R3-YV4	11	0	CH1の出力データ
			1	CH2の出力データ
			2	CH3の出力データ
			3	CH4の出力データ
3	R3-DA16	12	0	入力データ
4	R3-DC16	13	0	出力データ

システム定義

■R3-NF2の登録

モジュール種別：スレーブ、概略仕様：Tリンク i/fユニット（FTL）を選択して下さい。

Tリンクアドレスは前面のロータリスイッチの値を設定して下さい。

■入出力カードの登録

モジュール種別：リモート I/O を選択して下さい。

パラメータにて、入出力カードのデータサイズを設定して下さい。各入出力カードのデータサイズは占有エリアの値を設定して下さい。ただし、下記の入出力カードは占有エリアとデータサイズが異なります。下記のデータサイズを設定して下さい。

形式	種別	データサイズ(ワード)	
		入力	出力
R3-DA32A、R3-A□8	デジタル入力	2	0
R3-DC32□	デジタル出力	0	2
R3□-DAC16□、R3□-RR8、R3-PD16□	デジタル入出力	1	1
R3-BA32A	アナログ入力	2	0
R3-BC32A	アナログ出力	0	2

入出力データ

以下に代表的な入出力カードのデータ配置を示します。

入出力カードの詳細なデータ割付けは、それぞれの取扱説明書を参照して下さい。

■アナログデータ（16ビットデータ長、形式：R3-SV4、YV4、DS4、YS4、US4 など）



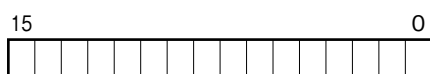
16ビットのバイナリデータ

基本的に、各カードで設定されている入出力レンジの0～100%を0～10000のバイナリ（2進数）で示します。

-15～0%の負の値は2の補数で示します。

R3-US4の場合は、-10～0%の負の値を2の補数で示します。

■アナログデータ（16ビットデータ長、形式：R3-RS4、TS4、US4 など）

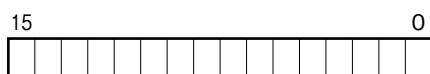


16ビットのバイナリデータ

基本的に、温度単位が摂氏（℃）の場合には10倍した整数部を示します。例えば、25.5℃の場合は“255”がデータとなります。また、温度単位が華氏（℉）の場合には整数部がそのままデータとなります。例えば、135.4 ℉の場合は“135”がデータとなります。

負の値は2の補数で示します。

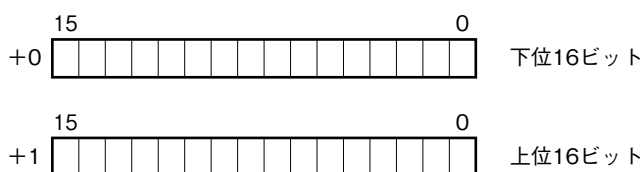
■アナログデータ（16ビットデータ長、形式：R3-CT4A、CT4B など）



16ビットのバイナリデータ

実量値（A）を100倍した整数（CLSE-R5は実量値（A）を1000倍した整数）を示します。

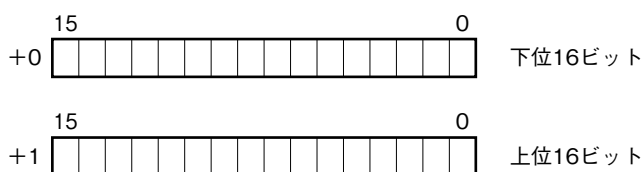
■アナログデータ（32ビットデータ長、形式：R3-PA2、PA4A、WT1、WT4 など）



積算値、位置変換データは、32ビット長のバイナリデータです。

低アドレスから順に下位16ビット、上位16ビットが配置されます。

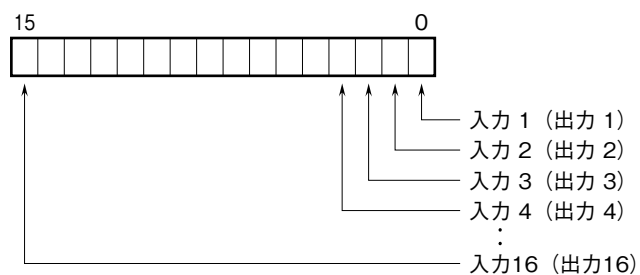
■アナログデータ（32ビットデータ長、形式：R3-BA32A、BC32A など）



BCDコードデータは、32ビット長のバイナリデータです。

低アドレスから順に下位16ビット、上位16ビットが配置されます。

■16点用接点データ（形式：R3-DA16、DC16 など）



0 : OFF

1 : ON

保証

本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後3年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。